

## ゴアール・ガ

PROGRAM

## ゴアール・ガスパリヤン

(全ソ連邦人民芸術家)  
(アルメニア人民芸術家)

全ソ連邦人民芸術家、アルメニア人民芸術家、スターリン賞受賞者の称号に輝くゴアール・ガスパリヤンは1922年、エジプト市郊外の町に生まれました。

生来、音楽、声楽の素養に恵まれていたガスパリヤンは、フランス系のボレ・バスター学院に学び、その後イタリア系の教授ピンチエンツオ・カルロおよびミラノオペラ座のエリザ・フェリドマンに師事しました。

優れた音楽的才能にもかかわらず、彼女のエジプトでの生活は他の幾千万ものアルメニア避難民と同様に、自らの偉大な輝やかしい才能を発揮することが出来ませんでした。第二次大戦後の1948年の夏、ガスパリヤンは大きな熱意をもつてなつかしの祖国、ソビエト＝アルメニア共和国に帰りました。それから彼女の素晴らしい創造的労働の喜びに満ちた多彩な生活が始まったのです。

アルメニア共和国の首都エレバンでのガスパリヤン第一回演奏会で、彼女の優しい、軽やかな美しい音質をもつ声色と稀にみる広い音、傑出した演奏技巧は、聴衆の心を強く引きつけました。

間もなく、ガスパリヤンは、国立スペインヤロフ・オペラ・バレエ劇場の専属歌手に採用され、ドリーフ作曲のオペラ「ラクメ」でラクメを演じてデビューしました。

ラクメを演ずることによつて、彼女の奇蹟的に思われる程の声楽上の素質、輝やくばかりの技巧、考えられない程軽い音の運び、楽句の切目の美しさ、錦糸の織物にもたとえられる音質の美しさをあらわし、万場の聴衆の心を完全に魅了したのです。

その後も、プリマドンナとして数多くのオペラに活躍し、そして現在では、モスクワでも彼女の演奏会の切符



は一カ月前に全部売切れるほどの人気をもっています。

それは、ガスパリヤンの音楽に対する限りない洞察力と、持つて生れた抒情性にあふれた美声、さらにイタリアオペラの伝統ある技法を完全に習得し、3オクターブ半にわたる、稀にみる素晴らしい音域による完璧な技巧によつて物語られましょう。



ピアニスト

エレオノーラ・ボスカニヤン

(アルメニア共和国労働芸術家)

1921年ハリコフ市に生れ、7才でピアノを習い始めました。ハリコフ高等音楽院のファンネンシチンに師事し、抜群の成績が認められ14才で演奏会に出演することを許されました。

その後、ハリコフ高等音楽院1年生の時エレヴァン高等音楽院に転校し、優秀な成績で卒業しました。

エレヴァン高等音楽院の教育を身につけたボスカニヤンは、独奏会をはじめ、ソ連邦の著名な独奏者とも出演し、大成功をおさめています。